

ポストコロナの早稲田大学中央図書館における展示について

株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
学術リテラシー事業部 図書館セントラルチーム

はじめに

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、図書館における利用者ニーズの変容をもたらした。感染拡大以前から、非来館型のサービスは定着してきていたが、感染拡大により、その傾向はより強まった。

早稲田大学図書館（以下、図書館）では、段階的に利用者サービスが再開されることになったが、来館者数の回復に伴い、ポストコロナにおける図書館のありかたが議論されることになった。どのようにすれば「来館すること」が利用者の価値となるかが模索された。

この価値の模索の一環として、早稲田大学アカデミックソリューション（以下WAS）では、入館してすぐに目に入る新着図書架の半面を恒常的に飾る展示について、図書館に提案した。来館の目的とは異なる図書や知識との偶然の出会いが、利用者の知的好奇心や刺激、新しい価値となることを意図したものである。

この提案は図書館に受け入れられ、以後現在に至るまで、継続して展示を続けている。

1. 中央図書館における展示への協力について



AVルームにおける展示の例（2022年9月）

WAS 図書館チームでは、2015年ごろより、中央図書館4階AVルームにおける展示活動を実施してきた。主に季節やその年の話題などを取り上げて、関連する視聴覚資料を展示する形を取っている。資料の選定、および装飾品の制作、レイアウトは、アルバイトスタッフが担当している。

また、2019年からは図書館が主催するLibrary Weekにおいて、展示企画に協力してきた。2023年秋学期までに、以下の通りの展示を実施した。

時期	タイトル
2019年春	・図書館スタッフのおすすめ本
2019年秋	・地図マニア@都の西北
2021年春	・図書館スタッフのおすすめ本
2021年秋	・どちらがお好み？～本で読む？ 映画で見る？～ ・早稲田新書を知っていますか！！

2022年春	大隈重信のすゝめ
2022年秋	図書館でワールドカップを楽しもう
2023年春	図書館♡（愛）
2023年秋	積読の世界



Library Week (2021年10月) Library Week (2022年4月)



Library Week (2022年10月)

2. 展示の常設化

常設展示に関する図書館への提案が受け入れられ、2021年12月より展示を開始した。2023年12月までの展示の記録は以下の通りとなる。

時期	タイトル
2021年12月	クリスマス
2022年1月	村上春樹のポートレート・イン・ジャズな世界
2022年2月	図書館スタッフのおすすめ本
2022年3月	春に読みたい本
2022年5月～6月	みんな、早稲田の学生だった
2022年7月	ポストコロナ 世界に飛び出そう
2022年8月	ホラー
2022年9月	月がたくさん
2022年11月	文豪マンション
2022年12月	クリスマス

2023年2月～3月	北欧
2023年5月～6月	お酒
2023年7月	日本文学
2023年8月	ラグビーワールドカップ
2023年9月	味わう秋、芸術の秋、読書の秋
2023年11月	猫と文学
2023年12月	箱根駅伝

常設展示のテーマは、季節や国内の行事に関連して選定することが多いが、早稲田大学内の博物館展示と連動する場合もある。例えば「村上春樹のポートレート・イン・ジャズな世界」は、国際文学館（村上春樹ライブラリー）における2022年春季収蔵品展である「音／言葉を刻む、ジャズと文学」と関連する内容となっている。

WAS 図書館チーム社員以外にも、アルバイトスタッフが制作を主導している展示も多い。この場合、資材の調達などはWAS社員が担当するが、選書、装飾品の制作、レイアウト、実際の配架に至るまで、すべてアルバイトスタッフが担当する。



2022年1月村上春樹の
ポートレート・イン・ジャズの世界

常設展示の準備には、1か月～2か月程度の期間を要する。そのため、事前に半年程度の展示計画を立てておく必要がある。本稿執筆時点では、2024年5月分までの展示スケジュールが確定している。



2022年11月 文豪マンション

3. 展示に関する利用者の反応について

2023年秋のLibrary Weekでは、「図書館交信ポスト」が設置され、利用者より中央図書館についての意見や質問が71件寄せられた。その中には、常設の展示に関する質問、メッセージが6件あり、いずれも好意的なものであった。以下抜粋して紹介する。



2023年2月 北欧

「毎日2階の企画を楽しみにしています。春学期の日本文学史の展示が特に良かったです。実際展示を行うことで貸し出し数は増えるのですか？」

「いつもテーマ展示を楽しみにしています。たしか夏休み前に行っていた世界の名作文学(?)の展示が特に面白かったです。展示が終了してもどんな本が並べられていたのかわかるように、一部のタイトルだけでもWeb上で公開していただけると嬉しいです。後になって気になっていた本のタイトルが思い出せないことがよくあるので。」

「2階エントランスにディスプレイされている選書がおそらく、いつも思わず手に取ってしまいます。今後も素敵な展示を続けてください！」

「いつも2F入口近くの棚に並べてある、その時期に合わせた内容の本のチョイスを見るのを楽しみにしています！」



2023年7月 日本文学

「夏にやっていた日本近代文学に関する展示がすごかったです。興味はあるけど難しそうだとつきにくい…と思っていた本を読みました！ぜひ常設展にしてほしいなあと思いました。海外文学編とかも見てみたいです。」



2022年5月～6月 みんな、早稲田の学生だった

4. 今後の展示について

展示の常設化以降、企画立案については原則としてWAS社内のみで完結させてきた。2024年以降は、これまでの成果を踏まえ、さらに多様な展示を提案すべく、図書館および学内他箇所との共創による展示企画も構想していきたいと考えている。